

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	学校名 嬉野市立大野原小中学校 ・学力の向上に向けての取組では、校内研修等充実してきた。今年度も講師招聘を行い、本質に迫る授業研究会を行い、目標達成を目指す。また、ICT活用では、どのように有効活用(より興味あるもの)にするかの研修を深め、授業に活かしていきたい。 ・健康・体づくりでは「う歯保有者の歯科受診」が進まなかったことに課題が残った。家庭の実態に寄り添いながら粘り強く受診の啓発をしていきたい。 ・家庭・地域との連携が充実していることで、本校の特色ある教育が成し遂げられている。今年度もさらに家庭・地域との連携を深めて、学校行事等を充実させ、地域に関わられた学校づくりを行っていきたい。
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 学校教育目標	かがやく大野原っ子の育成 ～ 新しいことに挑戦 様々な人との協働 社会に貢献 ～
----------	---------------------------------------------

3 本年度の重点目標	1 確かな学力を身に付けさせる。 2 思いやりの心、豊かな心を育てる。 3 元気で健やかな心身を育てる。 4 地域愛に満ちた豊かな人間性や社会性を育てる。
------------	----------------------------------------------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	
●学力の向上	○小学校から中学校へと続く一貫した教育を通じて、児童生徒が発達段階に応じ様々な方法で自分の思いや考えを表現できる児童生徒の育成。	○「各授業等で系統表を基に学年に応じた発問を工夫、授業の組み立てに取り組んでいる」と回答した教職員80%(14人中11人)以上 ○「自分の気持ちや考えを、相手に分かりやすく伝えることができる。」に肯定的な回答をする児童生徒の割合85%(36人中32人)以上	・各授業等で系統表を基に学年に応じた発問を工夫、授業の組み立て表現力を養う取組を行う。 ・児童生徒が学年を超えて自由に意見を交換できる、集会、あすなろ集会、縦割り班活動、NIEタイムなど場の設定を行う。					・学力向上対策コーディネーター ・研究主任 ・情報教育推進リーダー
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●「道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒85%(36人中32人)以上	・年間計画及び発達段階を考慮した道徳授業の確実な実践を行う。 ・定期的に平和集会や人権集会を実施する。 ・保護者や地域、他校と連携した交流・体験活動を実施する。					・道徳教育推進担当 ・人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●「いじめ予防・防止のための研修・会議、組織的対応ができている」と回答した教職員90%(16人中14人)以上 ○「学校には相談しやすい職員がいる」と回答した児童生徒80%(36人中29人)以上	・いじめ予防(月1回のアンケート等における児童生徒理解含む)や対応についての研修・会議を年間に3回以上実施する。 ・いじめ防止、認知・告知等について共通理解した上で組織的な対応を行う。 ・SC等との連携を強化し、相談時間の確保、相談しやすい雰囲気づくりに努める。					・生徒指導主事 ・教育相談担当 ・各学年担当
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めていると思う」と回答した児童生徒85%(36人中32人)以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%(36人中29人)以上	・行事や体験活動を通して、児童生徒一人ひとりの良い点や可能性を見つけ、評価する(褒める)取組を意識して行う。「自分以外の人のためにかんがえることができる」という自己肯定感を高める。 ・学習や行事、体験活動や異学年交流で、自らの夢や目標に結び付いた振り返り活動を充実させる。					・小・中各担任 ・進路指導主事
●健康・体づくり	○「あすなろ会(児童生徒会)」を中心に児童生徒が主体的に取り組む活動の充実	○「様々な学校行事に主体的または積極的に取り組めた」と回答した児童生徒85%(36人中32人)以上	・行事等の企画段階から「あすなろ会」が関わっていける手立てを取る。 ・行事等の司会及び進行等へ児童・生徒が積極的に関わっていき手立てを取る。					・児童・生徒会担当
	●「望ましい生活習慣の形成」	●「早寝早起き朝ご飯」、「食後の歯磨き」について肯定的な回答をした児童生徒90%(36人中33人)以上 ●「歯科検診結果を受け、う歯保有者の歯科受診100%」	・発達段階に応じて、生活習慣についての自己評価(チェックカード等)の実施を行い、振り返りの場を設定する。 ・保健だよりの発行による啓発活動を行う。 ・保護者への個別の連絡を徹底する。 ・歯科保健指導、ブラッシング指導等を継続的に実施する。					・養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○「安全に関する資質・能力の育成」	○通学途中での、事故・事件0%	・登校班への日常的な指導を徹底し、事故の事例をもとに考えさせる場を設定する。 ・災害被害防止のための組織的対応の充実を図るための研修を実施する。					・安全教育担当 ・管理職
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日を履行するために、日常の業務遂行を計画的に行う。 ・部活動休業日を確実に設定する。 ・部活動や社会体育での指導者の分担を行うなど、持続可能な働き方を目指す。 ・学校閉庁日の設定に伴い、年休取得を推進する。					・管理職
●特別支援教育の充実	○教師の専門性と特別支援教育意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上した教職員90%(16人中14人)以上	・特別支援教育研修会への積極的参加と講師招聘による校内研修の充実を図る。 ・個別の支援の方向性を探る。					・特別支援教育コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	
○家庭・地域との連携	○「コミュニティ・スクール」の特色を生かした教育活動の推進	○「学校・家庭・地域が三位一体となって児童生徒を育んでいる」と感じる教職員90%(16人中14人)以上・保護者90%(18人中16人)以上	・大野原高原学園広報活動の拡充と地域住民との協力による受け入れ態勢の継続を図る。 ・地域人材の活用やバイオリン等を使った本校独自の総合的な学習を実践していく。					・管理職 ・総合的な学習担当

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ・ ・ ・
----------------	------------------------------------------